



『トクシマ・アンツアイガー』

第7号

徳島 1915年5月16日

東部戦線での出来事（2）

その頃オーストリア軍の主力はサン川とプシェミシルあたりのロシア軍がとても頑強に反撃してきたため、ヴィスワ右岸で他のドイツ・オーストリア部隊と協力することができなくなり新たなプランを立てなければならなくなった。

ワルシャワ周辺の部隊の排除が図られ、そのために戦線のこの部分にできるだけたくさんの部隊を集め、一部ではロシア軍をしのぐ成果をあげた。けれども、こうした作戦は圧倒的な勢力をわれわれの両翼に集めることになり包囲されるという危険があった。

ともかく作戦の状況はここではわれわれにとってもはや大きな成果を上げる見込みがなくなったので、ドイツ側はこの地域にいる3倍のロシアの大軍と戦うというヴィスワ河とサン川での作戦を、後に条件がよくなって

から攻撃を再開するという事で打ち切ることにした。

ワルシャワとプシェミシルの間にいたすべての部隊はカルパティア山脈あるいはクラクフーチェストホヴァラインにまで撤退し、しかもその撤退は敵の兵力のさしたる介入もなしに成功したのは、われわれの諸部隊が戦場の主役であり続け、撤退はみずからの意志によるものでもっぱら戦略上の理由から生じたと取られたことのもっともよい証明となった。

それでロシア軍の一部がガリツィアに侵入している間に、南から南西方向の主力はクラクフーチェストホヴァラインに追った。やや力の弱いロシア軍部隊はトルニとナレフ川に進んだ。

われわれの狙いはけっして国境を守ることに限られてはおらず、最高参謀本部は大規模な攻勢によってポーランドに決着を付けたがっていた。この目的のために現有の全部隊はトルニとワルシャワの間に集められ、他方シュレージエンと同じく東プロイセンと西プロイセンの防御にはごくわずかな兵力しか割かれていなかった。さらに強力なオーストリア・ドイツ軍はクラクフ周辺に集められた。

そうこうするうちにロシア軍はゆっくりとヴァルタ川¹に進み、ほぼ 45 の部隊がコブとノヴォ・ラドムスクの間を強化した。

つづく

日本の歴史（6）

勉強のためにたくさんのすぐれた日本人が長期・短期に中国に送られたが、他方名のある中国の学者や僧もみずから日本に移り住むことを拒まなかった。こうしたことはもちろん、日本文化よりはるかに進んでいた中国文化の広まりに大いに役立った。仏教はますます広がりを見せついには宮廷にまで入り込んだ。仏教の僧は世俗の権力を持つようになった。たぐさ

1 オーデル川の支流

んの新しい仏教寺院が建てられ、場所によっては見事に飾り立てられた。こうして美術工芸の高度の興隆が生じた。奈良の宝物殿正倉院にはこの時代のたくさんの芸術品が保存されたが、首都が移った 794 年には閉じられ、それ以来もはやそでの収集は増えることはなかった。受け継がれた芸術品は、美術工芸の当時の到達段階に敬意を払わずにおれないような理解を与えてくれる。例えば多くの作品が日本人の手助けを得た外国の職人によるものであり、まだまったく日本独特の様式は持たないにしてもである。奈良時代の有名な作品は、751 年に作られた金銅製 16 m の奈良の大仏である。中国の作詩技術に学ぶことで日本でもまず中国語の詩（漢詩）が作られ 751 年に『懷風藻』がまとめられたが、すぐに日本語の詩も続くようになり、奈良時代の終わりごろには最初の大部の選集である『万葉集』（759 年）が生まれた。

歴史記述の最初の試みは、『古事記』（721 年）と『日本紀』（720 年）である（第 2 号、「日本の歴史」（1）参照）。奈良時代は自然経済から貨幣経済への移行期だった。交換手段としては、初めは米と麻製の布地や楮の樹皮²が使われた。日本語の音節文字であるカタカナの発明もこの時代のことである。

光仁の後を継いだ桓武にとって、もはや奈良は居城として不十分だった。彼は宮殿としての特別な一郭と規則正しく直角に区切られた道路を持つ新しい首都と実際の大都市を作らせた。新しい都市は平安京つまり平和な街という名を持ち、ここで国の統治が行われた 400 年は輝かしい平安期と言い表されるようになった。新しい首都の平安京という名は定着せず、後の時代には京都つまりただ首都と呼ばれ、1869 年まで皇居の所在地であり続けた。

元明天皇以降いつも反乱が続いていた蝦夷（アイヌ）はふたたび桓武に屈した。彼の死後皇位争いが生じた。その後をすぐに継いだ平城（へいぜい）天皇はまもなく退位し（809 年）、弟の嵯峨天皇（809 – 823 年）が皇位

2 和紙の原料

に着いた。それに反対し、彼を退けてふたたび平城を立てようという試みがなされたが失敗に終わった。天皇は護衛隊を作り、首都には今後は万が一の事態をもっと巧みに防いでくれる警察がおかれた。

仏教はいっそう地盤を固め宮廷ですら仏教の儀式が行われた。仏教の僧はとても寛容で、彼らの宗教を日本的な祖先崇拜と結び付けようと努めた。彼らはそれまでの宗教を捨てることは求めず、以前の神とともに仏を敬ってもよいとした。日本における仏教の大きな成果は、まさに日本的な宗教と巧みに順応し融合した点にある。日本の神々はインドの教えに出てくる神々とされ、これによって国民を分断するような新しい宗教という対立や危険は回避された。

.....

戦闘日誌（最終回）

11月5日 日本の特撃縦隊が主障壁近くまで進んで来た。われわれの砲兵隊は弾薬が足りないため、彼らを阻むことができない。夜8時第5歩兵保塁と干潟の間が攻撃されたが撃退。ほとんどすべての塹壕が砲撃でめっちゃめっちゃに破壊された。すべての中間陣地は夜に占拠された。突撃は一時間ごとにくり返された。

11月6日 小泥窪つまり台西鎮砲台は爆破された。プリューショー中尉は、彼の「タウベ」に乗って青島を飛び去った。夕方頃、第3堡塁が激しい榴弾攻撃にあった。すべての他の堡塁は主として榴散弾の「激しい砲撃」を受けた。夜11時頃、第4堡塁攻撃さる。攻撃は撃退され、堡塁に入り込んだ日本兵はさらに手榴弾で追い払われた。真夜中頃敵は第3堡塁の包囲に成功し、ドイツ側は降伏し

た。その後敵は、工兵中隊と膠州海軍砲兵大隊と第三海兵大隊第5中隊が守っていた中間陣地を突破した。シャリエール中尉が重傷を負った。

11月7日 イルティス山は朝早くに放棄せざるをえなくなった。アイエ海軍中尉の指揮するプンクトクuppe³の守備隊は、一人の兵士と一人の重傷者をのぞき倒された。右翼と左翼が背後から攻撃された。激しい塹壕戦。砲列は爆破された。

5時半に第4堡壘と第2堡壘が激しい抵抗ののちに陥落し、「ヤーグアル」は懸命に反撃したが撃沈された。

6時半に白旗が掲げられた。

施設を引き渡した後、11時に兵員の浮山河への移動が始まる。

11月9日 総督と皇帝陛下の間で電報交換。午後4時死者の埋葬式。

11月10日 青島に留まった戦争俘虜は台東鎮へ移送。

11月14日 膠州占拠記念日(1897年)。総督は杖を突いて青島を退去。

11月16日 日本軍の堂々たる行進。

11月20日 日本軍野戦病院を引き継ぐ。ドイツ赤十字が市街を退去。

補足 (『トクシマ・アンツァイガー』)

11月16日 沙子口へ行進。そこで「大東丸」に乗船。

11月19日 門司到着。

11月20日 高浜到着。99人上陸。

11月21日 大阪到着。

12月16日 徳島へ移送。

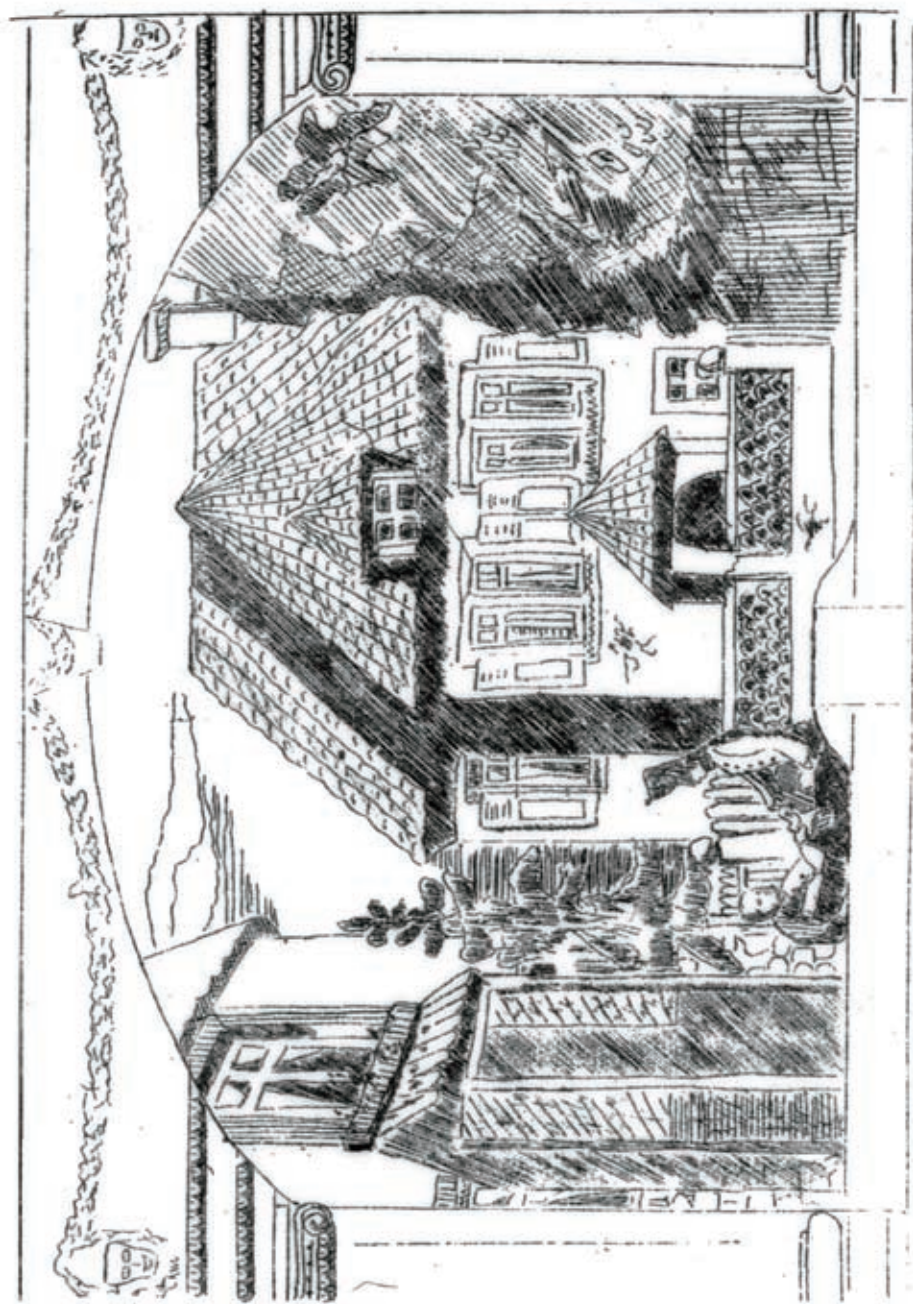
われわれの公演の夕べ

これまでのほとんどの「公演の夕べ」とは違って、昨日の「夕べ」にはきちんとした特徴があった。それはわれわれを解放戦争の偉大な時代に連れ戻し、当時のドイツ人を支配していた気風を映し出した。そしてきっとみんなを、あの時代を今の時代と比較しようという気にさせたことだろう。当時と同じく現在ドイツ人は自由と生存のための困難な闘いをしており、当時と同じくこの戦争もドイツ国民のすべてを支配している特性である、祖国愛と犠牲心と勇気と力と自己意識という、現代の長い平和の時期と気楽さの中でたいていの人が忘れていた特性を突然ふたたび思い起こさせた。

確かに解放戦争のあの英雄の思い出はドイツ国民のあの偉大な時代の詩人や学者の歌や物語をよみがえらせるが、ドイツ国民がドイツ国家の将来のために武器を取って敵の世界と戦っている今になって初めて、あの国民が高揚した力のすべてが意識され、今になって初めてわれわれは当時ケルナーや E. M. アルントの歌が駆り立てた感激をきちんと理解できるのだ。それらのいくつかは、まさに今の時代のために書かれたのかもしれない。

こうした事実はわれわれの昨夜の大きな成果を物語っている。残念だが実のところこの「夕べ」は「最後」となる。できればほんの一時のことであってほしいし、「夕べ」がもたらしたことからすればこれは二重の意味で悔しい。というのもこの夕べは、われわれの舞台と俳優がもっと大きな課題に対応するまでに成長したことを示していたからである。

「夕べ」の頂点となったのは、ケルナーのドラマ『ヨーゼフ・ハイデリッヒ』である。われわれが用意できたささやかな資金でこのような上演が成功したことは、この収容所にとってとても嬉しい事実である。舞台を作った人や装置を整えた人々は、こうした称賛を俳優とともに分かち合ってよかろう。何よりも、実際にすばらしい書き割りを作ったシュミット二等砲兵にふれないわけにはいかない。品の良い絵のような舞台装置を挿絵で再



現したい。

この作品は俳優ことに主役に変な演技を求める。それだけにいっそう嬉しいのは、これらの演技のほとんどすべてが立派だったことである。ただ、第一の市民の演技は、もう少し良いものにすることができたかもしれない。

「夕べ」のこの作品に先立つ部分は詩と散文の朗読の巧みな組み合わせと、合唱によってきちんと演じられた力のこもったケルナーの幾つかの歌から構成されていた。作品の個々の部分に立ち入る余裕はない。すでにしばしば有能な朗読者として知られているホルトカンプー等砲兵が、この「夕べ」でとりわけ好ましかったことだけは触れておきたい。

スポーツ

サッカー

今のところ次のチームが結成されている。

Aチーム（第3中隊）

<u>フォワード</u>	レーヴェン、プリンツ、ハイヤー、シュミッツ、 ブロンナー
<u>ハーフバック</u>	ラーデマツハー、ヘネッケ、ハイヤーマン
<u>バック</u>	エーベルツ、ナスート
<u>ゴールキーパー</u>	ハインツェル

Bチーム（第1、第2、第4中隊）

<u>フォワード</u>	カウマンズ、イーリヒ、レンケル、グレーニング、 カンプチーク
<u>ハーフバック</u>	カンドルスキー、フライ、ヤーン
<u>バック</u>	ライポルト、キルドルフ
<u>ゴールキーパー</u>	クルツケ

これからさらに4チームが作られる。

両チームの練習試合は今日10日に行われた。確かに、彼らのチーム力は拮抗していた。もちろんAチームは、ことにフォワードがとても優れたチームワークをもっていて初めはいくらか優勢だったが、サイドが替わるとBチームがかなりたがいにきみ合うようになった。Aのフォワードの優位は、Bの守備側の称賛に価するやや勝ったプレイによって防がれた。双方のゴールキーパーは、まだキーパーとしての十分な確実さを身につけておらず、さらに熱心な練習が必要だろう。ゲームの進行は所内にうまいプレイヤーがいることをはっきり示してくれたが、彼らはチームのこれまでの編成では力を発揮することができなかった。以前からの所によっては意図のはっきりしないゲームを見てきた人は、ここでやっときちんとしたゲームを見てびっくりした。固い地面とたくさんの穴が何度かの転倒の原因になったが、おそらく表土を何台か入れてグラウンドを地ならしすれば直せるだろう。

ゲーム自体はきちんと進んだ。反則はごくわずかだった。Bチームがキックオフをとりゆるい風を負った。前半には彼らのゴールはとても厳しく攻めたてられ、ボールが4回ゴールポストに入った。ハーフタイム前にすさまじい突進がBの唯一のゴールをあげた。サイドチェンジの後Bチームはいくらか調子が出てきて、逆風にもかかわらず今度は大部分Aゴール前でプレイした。ハーフタイムの後、両サイドはさらに2ゴールずつを入れた。したがってゲームはAの6対3で終わった。第2試合もほぼ同様な結果でAチームが勝った。

火 事

われわれの多くの読者もそうだったように、金曜から土曜の夜 1 時から 3 時の間、徳島の住民は火災の知らせによって夜の安らぎを破られた。われわれの所から川の対岸に巨大な火の柱が上がるのを見ることができ、十分に観察できたがいっそう範囲は広がった。われわれが見ることができた 3 番目かそれ以上に大きな火事だった。火災の被害がどの程度だったのかはこれまではっきりしないが、少ないとは思えない。とても幸運だったのは火事の間に風が吹いていなかったことで、さもなければ火はきっとはるかにひどく燃え広がったことだろう。

カンテラと提灯を持ってほとんど絶え間なく火元へと急ぐ人々の群は、感じの良い光景だった。このような事故からまたもこの国では火と灯りには注意しなければならず、これを警告と受け止めなければならないことをはっきり悟らされた。

.....

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 7 問の解答

1. Ta5 - d5 Ke4 - f4
2. Ke2 - d3 Kf4 - f3
3. Td5 - f5 詰み

第 8 問の解答

1. De4 - h1 任意の手
2. D か T で詰み

正解者 レンケル、バウムガルテン、ドーベ、ヨーゼフ・ヴェーバー、
 ベーマー

第9問

白：Kd2, Td8, Sc7, f3, Bg2

黒：Ke4, Sb4, f5, Be6, f4

3手詰め

第10問 「フォン・ザクセン元帥の鞭」

白：Kh3, De7, Te2, a8, Lc1, f3, Sc7, f8, Bg2

黒：Kg8, Bf4, f5, f6, f7, h4, h5, h6, h7

白は（任意数の手を経て）ポーンをひとつも取ることなく、ポーン g2 で詰むようにすること

チンタオのドイツ人とともに（1）

（青島包囲の期間中、そこにいたアメリカのジャーナリスト、アルフレッド・M・ブレイスは、このタイトルで自分の見聞をニューヨークの雑誌『世界の動き』に載せた。次に、この論説を翻訳して再録する。 編集部）

ともかく青島近辺で日本とドイツが戦うのは確実にになった。私は上海にいたのだが、大急ぎでいくつかのものをカバンに放り込み、ことが始まる時居合わせようと次の列車で北に向かった。

中国の港から、極東の新たな争いの種である青島へは40時間の旅だった。まず快適なイギリスの鉄道で古い城壁に囲まれた南京市に行き、フェリーでアメリカと中国の砲艦のそばを通過して揚子江を渡り、そこからまた鉄道で「大運河」沿いに長時間かけて山東省の省都である済南に着いた。ここから食堂車は英語の Dining Car ではなくドイツ語の Speisewagen となり、シュミットというドイツ名の人が私の青島行きの切符にパンチを入れた。というのも済南から400キロ東の青島までの鉄道は、ドイツ人

が作りドイツ人が運行していたからだ。

その日小さな町済南府は、前日に日本が最後通告を発したことで大騒ぎだった。

プラットホームは青島からのドイツ人避難民で溢れ、たいていは疲れて取り乱しているように見える女性がたくさんの乳飲み子や小さな子どもを連れていた。彼女らは、友人が世話してくれそうな天津や北京、上海行きの列車を待っていた。他方、彼女らの夫や兄弟や息子たちは皇帝のために戦うのだ。

ほとんどのドイツ人予備役は、ヨーロッパで戦いが始まったときに青島に來た。けれども極東の僻地からの人々が今なお駆けつけており、われわれの列車にもその一部が乗っていた。そこには広東から何日も大陸をよぎってやってきた若者がおり、日本からの商人や技術者・学者、バンコクやタイ、ジャワからの旅行者がいた。日焼けした人はロシアの金鉱山の指導をしていた内モンゴルからやって來た者だ。彼は、言葉の知識があったのでロシアの当局の手を逃れてきたのだ。ドイツは租借地を守るために、極東のすべての商業従事者を黄海に集めたのだ。

膠洲湾のカーヴを回っているとき夜が明けた。夕方には青島のアメリカ領事館の石段に座り異常な静けさに感動しながら、小さな町の同情をそそるような孤独に打ちひしがれていた。青島は闇に包まれ、対岸の教会から響いてくる時鐘の音にはほとんど身震いした。町を取り囲んでいる丘の上で砲火の鈍い音が聞こえた。翌日知ったのだがイギリスの砲艦「ケネット」が、対魚雷艇駆逐艦「S 90」を要塞の火砲の下に追い戻したのだそうだ。

その追跡はとても印象的で、「S 90」の煙突は夜空にまっかに輝いていた。数週間後この船は闇にまぎれて出港し、魚雷を撃って日本の巡洋艦「高千穂」を沈めたが座礁し爆破された。

青島は陸地に囲まれた膠洲湾沿いにあり、1897年にドイツ人が占拠し彼らの商業活動の中心とし、極東での艦隊のための拠点としていた。街は湾と海に挟まれた半島の先にあり、斜面に沿って赤い屋根の家々が立ち並

び湾を見下ろしている。街の後ろの丘の高台には、青島の防御の中心となるイルティス・ビスマルク・モルトケという3つの要塞が並んでいる。

この高台の麓に湾から海に向かって長々と（延長5キロもある）鉄条網による障害と高さ3mの白塗りの壁が延びており、その壁はやがてそれを越えてやってくる活き活きしたカーキ色の軍服をまとった生きた標的たちを目立たせる背景となる。このラインに沿ってすでに戦前から、砲撃を防ぐ覆いのついた5つの堡塁が作られており、千人から2千人の中国人の助けを借りたドイツ人が夢中になってこれらの堡塁をつなぐ塹壕を掘り、その後ろの丘にはほとんどが解体された砲艦からもってきた大砲が据え付けられた。

5千人にも満たない小さな軍隊が、穴を掘りセメントを運び角材を組み投石器の場所を選びしっかり敵と戦う日の準備をしている様子は、すべてドンキホーテの現代の英雄行為のようだった。人員が少ないのに驚いて、あるドイツ将校に戦線のうちのあなたの担当部分はどうかと尋ねてみた。彼は答えた。「5mごとに一人はいるよ」と。

歩き回り尋ねるしかない報道記者として、こうして働き活動している共同体の中で私は自分の居場所を見つけることができなかった。

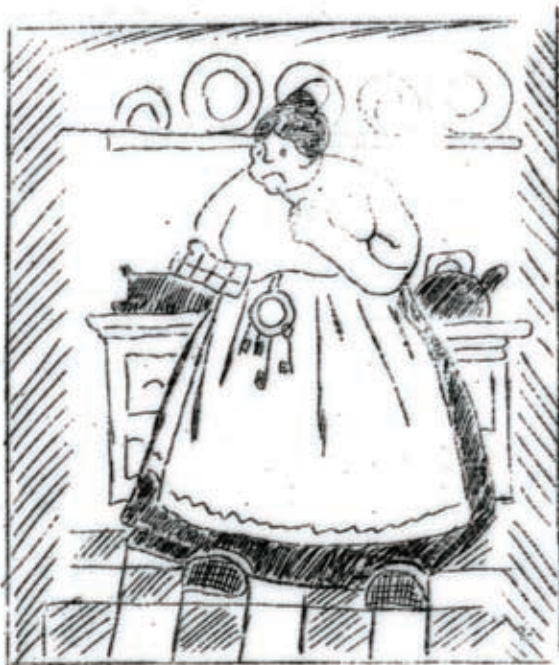
つづく

広 告

ドイツ語講座を開きたいと思っています。ご連絡を
エルドニス上級書記官



Kパンの切符！



ミューラー夫人は、土曜に配られたパンの切符を見て言いました。「あらまあ、今日はまだ月曜日というのに、もう 500 グラムもまた使っちゃったわ」

われわれの動物

捕らわれているのはわれわれだけでなく
たくさんの動物たちもそうだ
そして今は彼らを紹介するのが詩人の仕事だ
まず誰でも知っている古い戦友で
われわれとともにもう台東鎮にいて
ちび殿と呼ばれている犬

それ どころか奴は 戦いで
たくさんの
刀傷を受けている
今はまた元気になり



それがとても嬉しいのだ
次にここを代表しているのは
何よりもカナリア 半ダースのつがい
ひよっとしたらもっというのだろうか
白ねずみも趣味や気晴らしになり
ある奴は野生のを連れてきてそいつといなくなってしまう



はしごの上のアマガエルは
天気を教えてくれるが
たいていは下に坐っており、
すると雨になる
ガラス鉢の中では金魚が
泳いでいるが
高くないので誰でも買える



所内では雄鶏や雌鶏もいるが

卵のせいでたくさんの人に大事にされている

蛇やその他の匍匐動物もいるが

ここではそんなに喜ばれ

てはいない



からすのハンス・フッケバインは

おどけ者である

奴は確かに上手に鳴くが

歌を覚える気はない



最後にこのあたりではまだ猿をよく見かけるが

ことに時折愛らしいしぐさをする

これが多分そこにいる動物のすべてだが

まだ誰か特別なものを飼っている人がいるなら

教えてくれ

そしたら次回紹介しよう

もう余裕がないので今日はここまで



ロシアの友の祈り

愛する聖アドレアスよ、ひざまずき

あなたにお祈りします

私の嘆きを聞いてください、

私の切なる願いを

私を見捨てないで下さい

アラーよ預言者よ、

言ってください

私の苦しみを

憐れむと

さもなければ

いっそのこと

私にライ

ヴァルを

殺させて

ください

